

米ヘッジファンドとスウェーデンクローナ

米国の大学でデモが拡大している。パレスチナに対するイスラエルの軍事行動への抗議運動が主体だ。ニューヨークのコロンビア大学などを中心に全米に抗議活動が広がっている。

1968年の学生運動を想起させる。コロンビア大学の状況を記した「いちご白書」は本でも映画でも世界的に支持を集めた。当時の背景にはベトナム反戦運動があった。

非常に似た出来事だが、大きな違いもある。その一つは米国のヘッジファンドの影響だ。ヘッジファンドの台頭は70年代後半頃からで年々規模を拡大し、90年代後半から00年にかけて後退期もあったが、ほぼ一貫して発展してきた。巨額の資金を運用するヘッジファンドの担い手は市場の変動に大きな影響を与えると同時に、彼らの出身大学/大学院に対しても巨額の寄付金の供与を通して大きな影響を持つ。

米国の大学は運営コストが高く、寄付金やその運用は大学にとって存在を左右するほど重要だ。成功したヘッジファンドは寄付金を通して政党や議会に対しても政治的影響力を行使する。

著名なヘッジファンドの担い手は学生の反イスラエル抗議活動に大学が適切な対処を怠ったと批判し、ハーバード大学などの学長を年初に辞任に追い込んだ。こうした姿勢を共有するヘッジファンドは多く、抗議活動を強める学生に対して厳しい処分を求め、イスラエル側の価値の尊重を求める。

ところでこうしたヘッジファンドも注目したと思われるのがスウェーデンの利下げだ。先週政策金利を0.25%下げ3.75%とした。スウェーデンの中央銀行（リクスバンク）は革新的金融政策で有名で各国の政策をリードすることもある。例えばマイナス金利の導入は最も早かった。

その点ではECB(欧州中央銀行)やBOE(英国中央銀行)の先導役を果たすかもしれない。今回は既にスイスや中欧の国々が利下げをした。ECB、BOEの両中央銀行とも市場の見方では6月の利下げの可能性があるが、FEDの利下げの見

込みが後にずれ込んだことで微妙になっている。直近での FED の利下げは 9 月が市場の見方だ。FED より早く利下げをすると通貨安になりインフレの上昇に繋がる可能性があるからだ。

リクスバンクの総裁も利下げ時の会見で、インフレの低下見込みには自信があるが、リスクとしては利下げによりスウェーデンクローナ安が進行し、それによりインフレが上昇する懸念を述べた。

ただ実際の市場の動きを見ると利下げ時にはクローナは対ドル、対ユーロでも売られたが、その後戻り直近では 10.79 台と利下げ時よりもクローナ高の水準にある。

こうした状況が続けば ECB や BOE にも利下げのサポートになるだろう。